2022.3.3

PRESS RELEASE
金沢21世紀美術館　2022年度事業のご案内

2022▸23

Transhistorical

過去・歴史から学び、未来へ

21

今年度の金沢21世紀美術館のプログラムのコンセプトは、歴史の横断（transhistorical）です。「私たちは今どこにいるのでしょう、そしてどこに向かっていくのでしょうか？」この問いに対して、過去にズームバックすることで、現在をより理解し、それを未来に投影することを提案します。私たちは芸術を通して、この豊かな記憶の探査とアーカイブの発掘を絶えず行っているのです。

過去は歴史的経験としてときに幽霊のように再来します。韓国のムン＆チョンはアポカリプス的な人類の未来から逆に現在を、考古学者のように探索する視点を見せます。次なる「甲冑」展は日本の伝統と現在の対話です。安土桃山時代から江戸時代にかけて、工芸の技の極みでつくられた武士の象徴である甲冑を、現代作家とのコラボレーションによってアップデートした展示は金沢ならではの創造的伝統の発信となるでしょう。

パンデミックや災害によって変化しつつある現在は、全てが消尽し、新しい世界観を模索した戦後の状況に似ているのではないでしょうか？1950-60年代、現代芸術家たちは、「無」から何をつくり出すことができるのかを模索しました。その中心となったフランスの作家イヴ・クライン、同時代の作家たち、そしてポストインターネットの若手作家たちの非物質的創造を見せます。コレクションにおいては国立工芸館とのコラボレーションや、新技術によって更新されていく伝統としての工芸、アジアの海の歴史的交流をたどる展示を行います。周囲と関わってこれを取り込み活性化するエコロジーは、アペルトシリーズの人間と生物のエコロジカルな共存やストリートアートに反映されています。そして芸術交流プログラムは生き生きとした創造の芽を豊かに育てていく多彩で包括的なメニュー満載となっています。

金沢21世紀美術館館長　長谷川祐子

金沢21世紀美術館
広報担当：落合、石川、齊藤　〒920-8509　金沢市広坂1-2-1
TEL 076-220-2814　FAX 076-220-2802　MAIL press@kanazawa21.jp

※本内容は2022年3月現在の予定です。
展覧会名やイベント名、会期などは変更になる場合があります。
最新の情報は直接お問合せください。

歴史を横断するアーティストたちの実践

2022年度に開催する二つの特別展では、現代におけるアートの社会的機能や役割を様々な領域を横断しながら探究し続けるムン・キョンウォン&チョン・ジュンホ、戦後の荒廃から新しい人間性と芸術の在り方を追求したイヴ・クラインの取組を中心にご紹介します。過去から現在、未来へと歴史を紡ぐアーティストたちの実践から、現代社会と向き合うヒントを探ります。

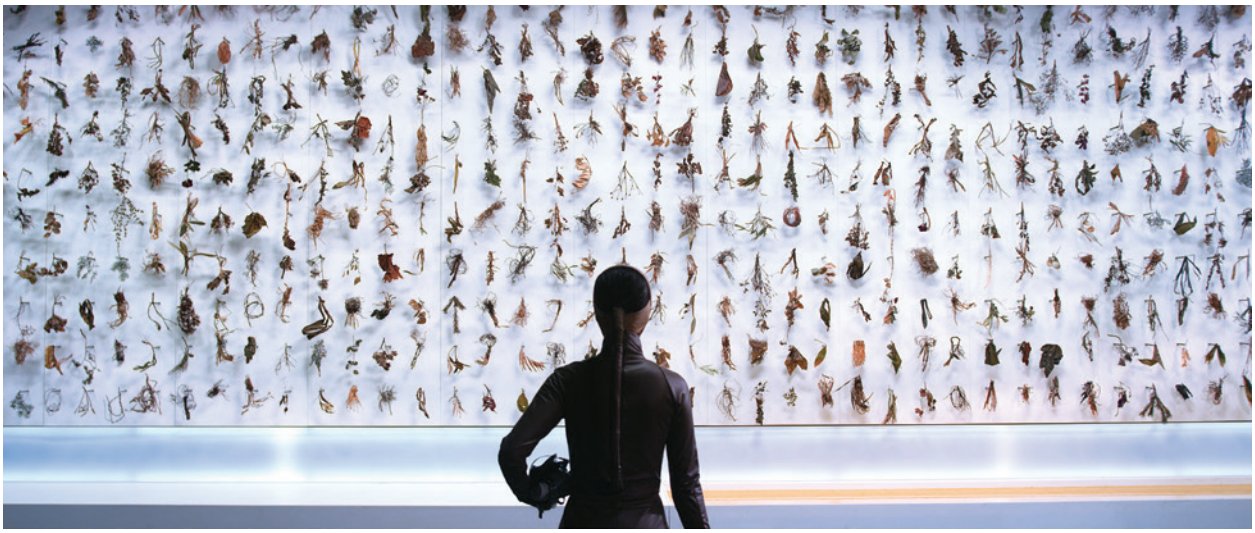
ムン・キョンウォン&
チョン・ジュンホ

5月3日（火・祝）— 9月4日（日）

1

ムン・キョンウォン & チョン・ジュンホ

現代韓国を代表するアーティストデュオ、ムン・キョンウォン&チョン・ジュンホによる国内初となる大規模個展。彼女たちは結成当初よりアートの社会的機能と役割を提示しつつ、様々な領域の専門家との対話と協働のための実践的なプラットフォームを提唱してきました。本展では、未来の人類が生存と自由の獲得のために葛藤する姿を詩的に描いた新作映像インスタレーション、2021年に韓国国立現代美術館で発表された《News from Nowhere : Freedom Village》及びアポカリプス前後の異なる時間軸とその接続を精緻に描き出した代表作《世界の終わり》を中心に展観し、さらに2018年から進めてきた金石地区（金沢市）での滞在制作についても、映像、ドローイング、マケットなどを通じて、彼女たちの思考と活動を多面的に紹介します。現代社会が直面する課題を抽出し、未来と過去を往還しながら、現在を生きる我々が思考するための力強いメッセージを投げかける彼女たちの作品世界を存分に体験していただけることでしょう。



2

ムン・キョンウォン & チョン・ジュンホ《世界の終わり》2012
金沢21世紀美術館蔵
© MOON Kyungwon and JEON Joonho

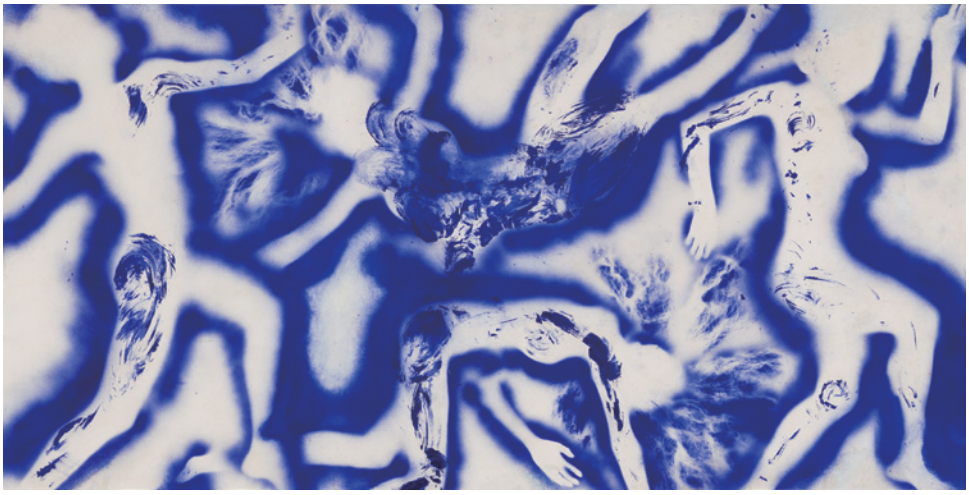
時を超えるイヴ・クラインの想像力
—不確かさと非物質的なるもの

10月1日（土）— 2023年3月5日（日）

3

ピーター・モーリーの映画「フランスの鼓動」（1961年2月）撮影時の
イヴ・クラインのポートレート
AMF / ©bpk / Charles Wilp

本展は、1950年代から60年代に活躍したフランスのアーティスト、イヴ・クラインを中心に、イタリアの空間主義運動や日本の具体などの同時代の作家、さらに現代の作家を加えて、彼らの芸術に共通する「非物質性」というテーマを浮かび上がらせます。荒廃した戦後の「タブラ・ラサ（空虚）」ともいえる状況から、イヴ・クラインは新しい人間性を探求する作家として、彗星（すい）のごとく登場しました。彼は、作品の素材や支持体のみに依存しない、芸術の「脱物質化」を徹底的に推し進め、同時代のアーティストのみならず後世の作家たちにも多大な影響を与えています。現代の私たちは、気候変動やウイルス、インターネットによる情報環境が生み出す混乱など、無数の「見えないもの」に影響を受け、その実体が見えない不確かさの中で、多くの厄災や分断と向き合っています。本展が紹介するイヴ・クラインを中心とした革新的な芸術家たちの「非物質性」を志向する創造的探求は、今の私たちが向き合う不確かな現在を乗り越える想像力を与えてくれるでしょう。



4

5

4.
イヴ・クライン《人体測定（ANT66）》1960年
水性メディウム、紙、カンヴァス　157 × 311 cm
いわき市立美術館蔵
5.
イヴ・クライン《人体レリーフ（マルシアル・レイス）—PR2》1962年
顔料（青）、合成樹脂、ブロンズ、金で彩色された板
178 × 94 × 33 cm
彫刻の森美術館（公益財団法人彫刻の森芸術文化財団）蔵

現代アート空間に息づく、伝統と革新

上期は、現代のテクノロジーを駆使した展示空間に鮮やかによみがえる武具・甲冑の魅力を通じて、古来より通底する日本文化の普遍性と革新に迫ります。下期は、2020年10月に金沢に移転・開館した国立工芸館との初のコラボレーションが実現。同館の唐澤昌宏館長をゲストキュレーターにお招きし、現代における工芸の魅力をご紹介します。「工芸」をテーマとしたコレクション展と併せ、伝統と革新が織りなす、魅惑の展示空間を現出します。

6|7

甲冑の解剖術 —意匠とエンジニアリングの美学

5月3日（火・祝）—7月10日（日）

6.「連続の断片」
（スニーカーのパーツにて製作した甲冑シリーズ）
7. 紅糸威仁王胴具足
室町時代〜桃山時代
石川県立歴史博物館蔵

戦国時代から江戸時代にかけて、戦いの場で、武士の誇りと力の象徴として独自の展開を遂げた甲冑。蒔（まき）絵や金工、組ひもなど工芸的な技と斬新な意匠を駆使した美学と、防具としての機能性やエンジニアリングの発達。これらの魅力を現代アーティストによる空間デザインで展示します。細部や構造をデジタル解析したライゾマティクスによる映像や、甲冑を現代人の身体のリアリティにしなやかにつなげるナイル・ケティングの空間デザインを通して、甲冑は現在の私たちに語り始めます。

8|9

金沢21世紀美術館と国立工芸館の所蔵作品によるコラボレーション展

「ひとがた」をめぐる造形

7月23日（土）—9月11日（日）

8. 北川宏人《TU07005–スキンヘッド》2007年
東京国立近代美術館蔵
撮影：斎城卓
9. 中村信喬《遥かなるローマ》2018年
東京国立近代美術館蔵
撮影：エス・アンド・ティ フォト

いにしえより長きにわたりつくられてきた造形に「ひとがた」があります。つくり手の想いが豊かに映し出されているそれは、工芸の分野では「人形」として、美術の分野では「彫刻」として捉えられてきました。しかし現在では、分野の枠にとらわれない人体表現が多彩に展開されて新たな世界をつくりつつあります。本展では、金沢21世紀美術館と国立工芸館の所蔵作品から、現代の作家による「ひとがた」の造形をご紹介し、その新しさを探ります。

企画協力：国立工芸館

拡張するコレクション

金沢21世紀美術館では、開館前の2000年より約4,000点の現代美術作品を収蔵してきました。2022年度は、東アジアの地理的・文化的な歴史を現代の美術表現に読み解くコレクション展を開催。また、恒久展示作品《カラー・アクティヴィティ・ハウス》でもおなじみのオラファー・エリアソンによる2021年度新収蔵作品をご紹介します。過去から現在、未来へと拡張し続けるコレクションとその豊かなバリエーションをお楽しみください。マシュー・バーニーの特別展示も必見です。

10

※会期中、展示替えの可能性あり
[参考画像]
奈良祐希「Bone Flower シリーズ」
展示風景
©Yuki Nara

コレクション展1
うつわ

5月21日(土)ー10月16日(日) ※一部の展示室は9月11日(日)まで

当館収蔵作品を中心に「うつわ」を主題に展観します。「うつわ」には、容器としての機能を持つものと、実用性から抜け出した考えのもとにつくられたものがあります。さらに、「うつわ」には生物の内臓を指し示すこともあり、臓器と共鳴する自然の生命記憶を呼び起こすような想像もはたらきます。様々な角度から「うつわ」を見つめることで、「うつわ」に込められた意味や価値について考えるきっかけとなることを目指します。

11

イザベル&アルフレド・アキリザン
《移動:もうひとつの国》2014年
金沢21世紀美術館蔵
撮影:木奥惠三

コレクション展2
Sea Lane – 島々への接続

11月3日(木・祝)ー2023年3月19日(日)

「沖縄と海を繋(つな)ぐ島々」をテーマとし当館の収蔵作品を中心に、海洋で繋がる様々な地域で生まれた作品の中から、自然や文化の成り立ちの多様性に着目します。海は島と島を繋ぐ「道」として、互いの地域に影響関係をもたらしてきました。本展を通して、島々で育まれた多様性と、海洋を巡る歴史的背景による他地域からの影響にも目を向けた作品をご紹介します。

12

All Artworks © Matthew Barney.
Photo by Ryuichi Maruo.
Courtesy of Fergus McCaffrey

特別展示:マシュー・バーニー

5月21日(土)ー9月11日(日) 「コレクション展1 うつわ」 会場内

「捕鯨」や「茶道」に表象される日本文化を、映画、彫刻インスタレーション、写真など多彩なメディアで展開したマシュー・バーニーによる、映画作品《拘束のドローイング9》(2005年)の主題を軸に開催します。映画《拘束のドローイング9》に登場する捕鯨母船「日新丸」を場所であると同時にキャラクターとして捉え、「キャラクター・ガラスケース」シリーズに凝縮された造形作《DRAWING RESTRAINT 9: Cabinet of Nisshin Maru》を中心に6点の写真作品と共に展観します。

13

《太陽の中心への探査》
©Olafur Eliasson
Photo by Jens Ziehe
金沢21世紀美術館蔵

特別展示:オラファー・エリアソン

7月23日(土)ー9月11日(日) 「ひとがた」をめぐる造形 会場内

《太陽の中心への探査》は、エコロジーと再生可能エネルギーに対するオラファー・エリアソンの関心から生まれたものです。この作品はガラスで覆われた多面体と太陽光発電ユニット(ソーラーパネル及び蓄電池等電源供給システム)により構成されており、きらめく偏光フィルターの輝きが鑑賞者を作品世界へと没入させます。太陽と惑星との関係をトレースするような光の動きは、アートを通して安定した持続可能な世界の実現を提示する、エリアソンの魅惑的なインスタレーションです。

デザインギャラリー ―――― デザイン×アート×テクノロジーで変える、変わる未来

人々の生活をより豊かにするデザインやテクノロジーが社会に果たす役割に着目し、業界の第一線で活躍するアーティストやクリエイター、企業とのコラボレーションを実現。発想力、技術力、デザイン性に富んだ各分野最先端の取組をご紹介し、日々を創造的に過ごすヒントをお届けします。

14

JEFF KOONS
《BALLOON DOG(BLUE)》
2021
BERNARDAUD
@Jeff Koons

ジェフ・クーンズ×ベルナルド

4月9日（土）― 9月11日（日）

ジェフ・クーンズ（1955年、ペンシルベニア州ヨーク生まれ、ニューヨーク在住）はアメリカ大衆文化やセレブリティなどのテーマを結びつけた独特のイコノグラフィーによって世界を魅了し続ける作家です。本展はフランスのリモージュを代表する磁器ブランド「ベルナルド」との協働により、クーンズのシグネチャーともいうべき「バルーン・ドッグ」を中心に、イノベーティブで極めて精巧なデザインワークをご紹介します。

15

【参考画像】
仮囲いアートミュージアム in Takanawa Gateway Fest (2020)

lab.5 ヘラルボニー

10月1日（土）― 2023年3月21日（火・祝）

福祉実験ユニット「ヘラルボニー 」は人それぞれの特色を「異彩」として尊重し、様々な形で社会へ送り届けながら、新しい価値の提案を行っています。今回はデザインギャラリーを拠点に、身体や心に特性のある人たちとともに安心して楽しく過ごせる美術館のアクセシビリティ（参加しやすさ）とユーザビリティ（使いやすさ）について、感じ考える場を創造します。半年間の活動を通じて、そこに集う人や出来事が地域と接続することを目指します。

アペルトシリーズ ―――― 若手作家を中心に個展形式で紹介する展覧会シリーズ

「アペルト」（イタリア語で『開くこと』）は、若手作家を中心に個展形式で紹介する展覧会シリーズです。世界の「現在」とともに生きる美術館として、今まさに興りつつある新しい動向に目を向け、作品発表の機会を通じて未来の創造への橋渡しをします。

16

© AKI INOMATA
courtesy of Maho Kubota Gallery

アペルト16
AKI INOMATA：Acting Shells

4月9日（土）― 9月11日（日）

AKI INOMATA（1983-）は、生き物との関係に着目し、動物と共に制作した作品を多く発表しています。本展は、INOMATAによる進行中のプロジェクト「貨幣の記憶」を中心に構成されています。これは、真珠貝の中に現代世界の各国の通貨のシンボルとなる肖像を融合させることで、「貨幣の化石」をつくり出す試みです。このプロジェクトを中心として、本展は、能動的な「シェル」の振る舞いを提示し、過去と現在を横断する想像力を提示します。

17|18

17.
《SCAN THE WORLD [STAGE: COLLECTIVE BEHAVIOR] 》2018
photo by たまえ
18.
《Image from STW》
2018

アペルト17
SCAN THE WORLD [NEW GAME]

10月1日（土）― 2023年3月19日（日）

SCAN THE WORLD（STW）は、石毛健太（1994年、東京都生まれ）とBIEN（1993年、東京都生まれ）の2名のアーティストが中心となって行っている、ハンディスキャナーによって街をスキャニングするプロジェクトです。STWは路上表現の現在形のうちの一つであり、同時に新しい遊びの実践でもあります。本展では、SCAN THE WORLDが金沢にて滞在制作を行い、新たな路上の遊びを提示します。

芸術交流事業

金沢21世紀美術館では、市民をはじめ、多様な価値観や背景を持つあらゆる人々が主体的に参加できる事業を実現し、美術館を介して、人と人、人と地域が有機的につながっていく、出会いと交流の「場」を共創します。

19

［参考画像］
2021年度「まるびぃシネマ・パラダイス! vol. 8 毒笑い～ヒ劇とキ劇は紙一重」活動風景

広坂シネマクラブ

大きなスクリーンで他の人と一緒に映画を楽しむ魅力を見直し、発信するクラブ活動が始まります。幅広い世代の多様な人が「映画」をキーワードに美術館に集い、地下1階にある「シアター 21」で「映画館へ行くことをためらってしまうどんな人も安心して映画を楽しめる場づくり」を目指します。部員同士で上映作品の選定、会場や作品へのアクセシビリティ、PR方法などを考えながら、映画を通して交流しましょう。

20

［参考画像］
「日々の生活–気づきのしるし」展
TALK SERIES VOL.6
デヴィット・シム「人々のための街をつくる」(2017年10月)

新・レクチャー・シリーズ

年5回

芸術、テクノロジー、歴史、食、環境、教育、ファッションなど、様々な分野の専門家によるレクチャーシリーズを新しく始めます。科学技術の進歩が社会を変化させ続ける中、また地球環境や社会システムの劣化などにも対応すべく、私たちはあらゆる分野で協調していく必要があります。レクチャーとレクチャー後の質問や意見を交換できる場を通して、世界の変化を理解し、仕組みや態度を調整／更新していく学びの機会を創出します。

21

劇団あはひ
『Letters』
(KAAT神奈川芸術劇場大スタジオ、2021)
撮影:bozzo

芸術交流共催事業 アンド21

7月、10月、11月、12月

意欲的な活動を行うアーティストを対象に美術館が共催者としてサポートする公演事業を公募。有識者による選考委員会での採択を経て2022年度は4つの公演事業を実施します。7月は物語と美しい舞台美術、コロナ危機における哲学的な思索とが舞台上でクロスする「劇団あはひ」の演劇公演。10月は田村興一郎率いる「DANCE PJ REVO」によるコンテンポラリーダンスの公演。11月は2020年から延期となっていた「劇団らまのだ」の演劇公演。12月には「音楽とは何か？」を問いかける「サンガツ」のインスタレーションライブ公演を実施します。

22

コンドルズ「Don't Stop Me Now」ツアー風景(兵庫県立芸術文化センター、2019年11月)

金沢21世紀美術館presents

高校生限定　劇的!バスツアー

春、秋

高校生の劇場での舞台芸術鑑賞をサポートする企画旅行事業です。高校生は低額料金でツアーに参加し、舞台公演を観ることができます。バス車内でのプレトークや公演後のトークセッション、バックステージツアーが豊かな劇場文化との出会いを補完します。2022年度は春と秋の2回、高校演劇部などと連携しながら、県外の刺激的で特徴ある公演を鑑賞するツアーを予定しています。

23

2018年度自治区金石大野芸術計画田口行弘「居場所」ワークショップ「漂流物で楽器を作る！」

アーティスト・イン・レジデンス金沢（AIR Kanazawa）

美術、演劇、ダンス、映像、パフォーミング・アーツ、音楽などの芸術分野と、それらに関連する教育、建築、街づくりなどの分野で活動するアーティスト、キュレーター、研究者、批評家を国内外から招き、金沢で滞在しながら作品の制作やリサーチ活動を行うプログラムです。多様な背景を持つ滞在者と地域の人々との出会いや交流を通して、知見や意見を交換し合い、創造的で豊かな文化の醸成に寄与します。

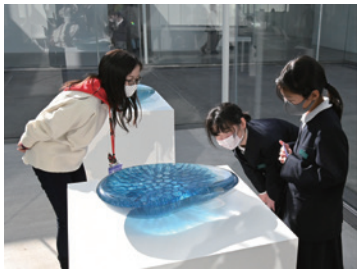
24

市民美術の日「オープンまるびぃ2016」の様子

市民美術の日 オープンまるびぃ2022

11月3日（木・祝）

「市民美術の日」は1年に一度、金沢市民が主催展覧会を無料で観覧できる日です。それはまちの皆さんがアートにふれ、アートを楽しんで過ごす特別な一日です。この日に向けて日頃から、美術館がまちの皆さんの居場所であり共に創る場所であるよう、「みんなの美術館 みんなと美術館」や「10のレッスン」といったプログラムや、「まるびぃみらいカフェ」などボランティア活動を通じて、協働・協創と交流の活動を続けていきます。


25

2021年度ミュージアム・クルーズの様子（コレクション展2 BLUE 展覧会場）

金沢市内小学4年生 全児童招待プログラム

ミュージアム・クルーズ

春、秋

金沢市内で学ぶ小学４年生を対象に、美術館で現代アートの多様な表現に出会い、見て感じて話し合う鑑賞プログラムです。鑑賞をサポートする「クルーズ・クルー」とともに、コレクション展の作品を鑑賞し、美術館を探検します。

26

2021年度ワークショップの様子

中学生まるびぃ アートスクール

8月～2023年1月（予定）

身近な事柄からテーマを設け、金沢市内の中学生とアーティスト、学校、美術館が共同でワークショップを行います。自分のことや社会のことなどを自らの視点で見つめ、考え、思いを表現し、それらの成果を展覧会や記録集などの形で公開します。

27

「ハンズオン・まるびぃ！」の様子

キッズスタジオ・プログラム

【毎週土日・祝日】
休日プログラム「ハンズオン・まるびぃ!」
【毎週火曜～金曜の平日】
平日プログラム「すくすくステーション」
【奇数月】絵本を読もう

「ハンズオン・まるびぃ！」では子どもたちが造形活動や作品鑑賞を楽しみます。「すくすくステーション」では平日の美術館を小さなお子さんとの散歩コースとして楽しめるよう子育て広場としてオープンします。その他アートライブラリー・プログラム「絵本を読もう」など様々な活動を行います。

展覧会スケジュール

2022 4 5 6 7 8 9 10 11 12 2023 1 2 3 4

ムン・キョンウォン＆チョン・ジュンホ
会期…5月3日（火・祝）～9月4日（日）
会場…展示室7～12

時を超えるイヴ・クラインの想像力
―不確かさと非物質的なるもの
会期…10月1日（土）～3月5日（日）
会場…展示室1、5～12、14

甲冑の解剖術
―意匠とエンジニアリングの美学
会期…5月3日（火・祝）
～7月10日（日）
会場…展示室6、14

「ひとがた」をめぐる造形
会期…7月23日（土）～9月11日（日）
会場…展示室6

特別展示：オラファー・エリアソン
会期…7月23日（土）～9月11日（日）
会場…展示室14

コレクション展2 BLUE
会期…～5月8日（日）
会場…展示室1～6、他

コレクション展1 うつわ
会期…5月21日（土）～10月16日（日）
会場…展示室1～5、13
（展示室1、5は9/11まで、展示室2は9/13～10/16まで）

コレクション展2 Sea Lane – 島々への接続
会期…11月3日（木・祝）～3月19日（日）
会場…展示室2～4、13

特別展示：マシュー・バーニー
会期…5月21日（土）～9月11日（日）
会場…展示室2

ジェフ・クーンズ × ベルナルド
会期…4月9日（土）～9月11日（日）
会場…デザインギャラリー

lab. 5 ヘラルボニー
会期…10月1日（土）～3月21日（火・祝）
会場…デザインギャラリー

アペルト16 AKI INOMATA Acting Shells
会期…4月9日（土）～9月11日（日）
会場…長期インスタレーションルーム

アペルト17 SCAN THE WORLD [NEW GAME]
会期…10月1日（土）～3月19日（日）
会場…長期インスタレーションルーム

4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3 4
2022 2023

有料展
無料展

料金表

展覧会名	会期	当日窓口販売料金				WEB販売料金・団体料金（20名以上）		
		一般	大学生	小中高生	65歳以上	一般	大学生	小中高生
ムン・キョンウォン&チョン・ジュンホ	5/3（火・祝）～9/4（日）	1,200円	800円	400円	1,000円	1,000円	600円	300円
甲冑の解剖術 —意匠とエンジニアリングの美学※1	5/3（火・祝）～7/10（日）	750円	520円	260円	600円	600円	410円	200円
「ひとがた」をめぐる造形＋ 特別展示：オラファー・エリアソン※1	7/23（土）～9/11（日）	750円	520円	260円	600円	600円	410円	200円
時を超えるイヴ・クラインの想像力 —不確かさと非物質的なるもの	10/1（土）～3/5（日）	1,400円	1,000円	500円	1,100円	1,100円	800円	400円
コレクション展1：うつわ	5/21（土）～10/16（日）	450円	310円	無料	360円	360円※2	240円※2	無料※2
特別展示：マシュー・バーニー	5/21（土）～9/11（日）							
コレクション展2： Sea Lane – 島々への接続	11/3（木・祝）～3/19（日）	450円	310円	無料	360円	360円※2	240円※2	無料※2

※ WEB販売チケットは、当館WEBサイトよりご購入いただけます（販売開始日は各展覧会によって異なります）。
※ コレクション展は同時期開催の特別展チケットで観覧できます（ただし、表中※1の展覧会は除きます）。
※ 表中※2について、コレクション展はWEB販売はありません（当日券販売のみ）

広報用画像

画像1～27を広報用にご提供いたします。ご希望の方は下記をお読みの上、
当館プレスルームの画像提供ページからお申し込みください。
https://www.kanazawa21.jp/form/press_image/

［使用条件］
※広報用画像の掲載には各画像のキャプションとクレジットの明記が必要です。
※トリミングはご遠慮ください。作品が切れたりキャプション等の文字が画像にかぶったりしないよう、レイアウトにご配慮ください。
※情報確認のため、お手数ですが校正紙を広報課へお送りください。
※アーカイヴのため、後日、掲載誌（紙）、URL、番組収録のDVD、CDなどをお送りください。
以上、ご理解・ご協力のほど、何とぞよろしくお願いいたします。